



平成28年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成27年7月31日  
上場取引所 東

上場会社名 フィールズ株式会社  
 コード番号 2767 URL <http://www.fields.biz/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 大屋 高志  
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員コーポレートコミュニケーション室長 (氏名) 畑中 英昭 (TEL) 03-5784-2111  
 四半期報告書提出予定日 平成27年8月7日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成28年3月期第1四半期の連結業績(平成27年4月1日～平成27年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年3月期第1四半期	17,140	129.8	△1,005	—	△864	—	△867	—
27年3月期第1四半期	7,459	29.8	△2,509	—	△2,254	—	△1,502	—

(注) 包括利益 28年3月期第1四半期 △681百万円(—%) 27年3月期第1四半期 △1,744百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
28年3月期第1四半期	△26.15	—
27年3月期第1四半期	△45.29	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
28年3月期第1四半期	90,082	58,305	63.9
27年3月期	110,316	60,246	53.9

(参考) 自己資本 28年3月期第1四半期 57,526百万円 27年3月期 59,492百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
27年3月期	—	25.00	—	35.00	60.00
28年3月期	—	—	—	—	—
28年3月期(予想)	—	25.00	—	25.00	50.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

平成27年3月期 期末配当35円00銭には、記念配当10円00銭が含まれています。

3. 平成28年3月期の連結業績予想(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	120,000	20.5	6,000	26.5	6,500	18.4	3,500	15.9	105.47

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

当社は年次での業績管理を行っているため、通期のみの開示としています。

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動  
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	28年3月期1Q	34,700,000株	27年3月期	34,700,000株
② 期末自己株式数	28年3月期1Q	1,516,200株	27年3月期	1,516,200株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	28年3月期1Q	33,183,800株	27年3月期1Q	33,183,800株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づくレビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件等については、添付資料P.3「1.当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

・当社は平成27年8月3日(月)に機関投資家・アナリスト向けに説明会を開催する予定です。この説明会で配布した資料等については、開催後速やかに当社ホームページに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 .....	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 .....	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	4
3. 四半期連結財務諸表 .....	5
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	10
(継続企業の前提に関する注記) .....	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

[当第1四半期連結累計期間(4月～6月、以下「当第1四半期」)の概況]

売上高は17,140百万円(前年同期比129.8%増)、営業損失1,005百万円(前年同期の営業損失2,509百万円)、経常損失864百万円(同経常損失2,254百万円)、親会社株主に帰属する四半期純損失867百万円(同親会社株主に帰属する四半期純損失1,502百万円)となり、通期見通しに対して概ね計画通りの進捗となりました。

業績の主な要因は、下記のとおりです。

遊技機販売においては、昨年9月のパチスロ機の型式試験方法変更に適した「エヴァンゲリオン・希望の槍」などを販売しましたが、ユーザーからは一定の支持を受けている状況にあります。当社は、引き続き、業界内での規則変更等の流れを市場拡大のビジネスチャンスと捉え、ゲーム性、エンタテインメント性の高い遊技機を販売する計画のもと、各種営業施策を推進しています。

当第1四半期においては、下表のとおり営業活動に努め、計上台数はパチスロ28千台(前年同期比23千台増)、パチンコ15千台(同22千台減)、総販売台数44千台(同0.2千台増)となりました。

なお、その他の事業においても、概ね計画通りの進捗となりました。

<販売済み及び営業活動中のタイトル(平成27年7月31日現在)>

パチスロ遊技機	納品月
エヴァンゲリオン・希望の槍	平成27年6月
パチスロ バイオハザード6	平成27年7月

パチンコ遊技機	納品月
CRエヴァンゲリオン9 零号機暴走ループVer.	平成27年5月
CRミリオンゴッドライジング	平成27年7月
CR機動戦艦ナデシコ(※)	平成27年8月
CR魁!!男塾(※)	平成27年8月
CRエヴァンゲリオンX(※)	平成27年9月

(注)「※」印は、平成27年7月31日現在、営業活動中のタイトルです。

主なIPの創出・事業化の取り組みは、下記のとおりです。

当社グループは、中長期を見据えた成長戦略として、キャラクターやストーリーをはじめとするIP(知的財産)をクロスメディアで展開する循環型ビジネスを推進しています。

IPの創出については、コミック誌『月刊ヒーローズ』を中心に、引き続きIP開発に注力しました。また、同誌掲載作品のクロスメディア展開に向け、複数の映像化プロジェクトを進行させるとともに、ゲームやパチンコ・パチスロ化の企画開発を推進しました。

映像を起点とした展開については、テレビ分野において『ウルトラマンX』の放送を開始し、WEB配信分野において『ニンジャスレイヤー フロムアニメイシヨン』の映像配信を行いました。また、テレビやWEB配信を通じた映像展開に併せ、各々のキャラクターを活用した子供向け、大人向けの商品展開を実施しました。

IPの収益化を担うマーチャンダイジングについては、多様な分野において収益基盤の強化に努めました。ソーシャルゲーム分野においては、前期に投入した『アニマル×モンスター』の大型アップデートや新たなコラボレーション企画など、ゲーム性のさらなる改善を進めました。この他、既存キャラクターの商品展開に加え、コンセプトや世界観を形にする『A MAN of ULTRA』(ライセンスブランド)を立ち上げました。ライブエンタテインメント分野においては、『ウルトラマンシリーズ』を活用した体感型のライブエンタテインメント・ショーを、国内はもとより海外でも公演しました。パチンコ・パチスロ分野においては、当第2四半期に導入する『パチスロ バイオハザード6』や『CRエヴァンゲリオンX』など、IPを活用した複数の遊技機の営業活動を進めました。なお、当社グループは、当第1四半期に遊技機メーカーの株式会社アリストクラートテクノロジーズ、及び株式会社スパイキーを子会社化しており、今後は、両社が保有するハードウェアやソフトウェアなどの資産を活用した商品展開にも着手していきます。

(注)本短信に記載の商品名は各社の商標または登録商標です。

(2) 財政状態に関する説明

(資産の部)

流動資産は、50,657百万円と前連結会計年度末比20,357百万円の減少となりました。これは主に売上債権の減少によるものです。

有形固定資産は、12,253百万円と前連結会計年度末比56百万円の増加となりました。

無形固定資産は、4,447百万円と前連結会計年度末比43百万円の減少となりました。

投資その他の資産は、22,724百万円と前連結会計年度末比109百万円の増加となりました。これは主に長期貸付金の増加によるものです。

以上の結果、資産の部は90,082百万円と前連結会計年度末比20,234百万円の減少となりました。

(負債の部)

流動負債は、26,883百万円と前連結会計年度末比18,890百万円の減少となりました。これは主に仕入債務の減少及び未払法人税等の減少によるものです。

固定負債は、4,893百万円と前連結会計年度末比596百万円の増加となりました。これは主に退職給付に係る負債の増加によるものです。

以上の結果、負債の部は31,776百万円と前連結会計年度末比18,293百万円の減少となりました。

(純資産の部)

純資産の部は、58,305百万円と前連結会計年度末比1,940百万円の減少となりました。これは主に利益剰余金の減少によるものです。

(キャッシュ・フローの状況の分析)

当第1四半期連結累計期間における現金及び現金同等物(以下、「資金」という。)は、前連結会計年度末に比べ185百万円増加し、16,009百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果使用した資金は、5,334百万円(前年同期は8,932百万円の支出)となりました。これは主に売上債権の減少24,506百万円、仕入債務の減少26,148百万円、法人税等の支払2,296百万円等によるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果得られた資金は、75百万円(前年同期は544百万円の支出)となりました。これは主に貸付金の回収による収入1,427百万円、貸付けによる支出1,393百万円等によるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果得られた資金は、5,445百万円(前年同期は1,172百万円の支出)となりました。これは主に短期借入れによる収入6,670百万円、配当金の支払1,107百万円等によるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

	平成28年3月期 見通し	平成27年3月期 実績	対前期増減率
売上高	120,000百万円	99,554百万円	20.5%増
営業利益	6,000百万円	4,743百万円	26.5%増
経常利益	6,500百万円	5,491百万円	18.4%増
親会社株主に帰属する当期純利益	3,500百万円	3,108百万円	15.9%増

通期連結業績予想は、平成27年4月30日発表の「平成27年3月期 決算短信」の通り、公表した内容に変更はありません。

## 2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

### (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

### (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

#### 税金費用の計算

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しています。

### (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

#### (会計方針の変更)

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日。以下「企業結合会計基準」という。)、  
「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成25年9月13日。以下「連結会計基準」という。)及び  
「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 平成25年9月13日。以下「事業分離等会計基準」という。)  
等を、当第1四半期連結会計期間から適用し、支配が継続している場合の子会社に対する当社の持分変動による差額を資本剰余金として計上するとともに、取得関連費用を発生した連結会計年度の費用として計上する方法に変更いたしました。また、当第1四半期連結会計期間の期首以後実施される企業結合については、暫定的な会計処理の確定による取得原価の配分額の見直しを企業結合日の属する四半期連結会計期間の四半期連結財務諸表に反映させる方法に変更いたします。加えて、四半期純利益等の表示の変更及び少数株主持分から非支配株主持分への表示の変更を行っています。当該表示の変更を反映させるため、前第1四半期連結累計期間及び前連結会計年度については、四半期連結財務諸表及び連結財務諸表の組替えを行っています。

当第1四半期連結累計期間の四半期連結キャッシュ・フロー計算書においては、連結範囲の変動を伴わない子会社株式の取得又は売却に係るキャッシュ・フローについては、「財務活動によるキャッシュ・フロー」の区分に記載し、連結範囲の変動を伴う子会社株式の取得関連費用もしくは連結範囲の変動を伴わない子会社株式の取得又は売却に関連して生じた費用に係るキャッシュ・フローは、「営業活動によるキャッシュ・フロー」の区分に記載しています。

企業結合会計基準等の適用については、企業結合会計基準第58-2項(4)、連結会計基準第44-5項(4)及び事業分離等会計基準第57-4項(4)に定める経過的な取扱いに従っており、当第1四半期連結会計期間の期首時点から将来にわたって適用しています。

これにより、当第1四半期連結累計期間の営業損失、経常損失及び税金等調整前四半期純損失はそれぞれ105百万円増加しています。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成27年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	15,823	16,009
受取手形及び売掛金	45,888	22,972
商品及び製品	239	317
仕掛品	1,414	1,957
原材料及び貯蔵品	83	1,451
その他	7,589	7,971
貸倒引当金	△25	△22
流動資産合計	71,014	50,657
固定資産		
有形固定資産		
土地	7,737	7,582
その他	4,459	4,671
有形固定資産合計	12,197	12,253
無形固定資産		
のれん	1,618	1,538
その他	2,872	2,908
無形固定資産合計	4,490	4,447
投資その他の資産		
投資有価証券	14,564	14,171
その他	9,079	9,581
貸倒引当金	△1,029	△1,028
投資その他の資産合計	22,614	22,724
固定資産合計	39,302	39,425
資産合計	110,316	90,082
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	33,850	9,694
短期借入金	4,014	10,684
1年内返済予定の長期借入金	42	32
未払法人税等	2,345	149
賞与引当金	378	99
役員賞与引当金	282	71
返品調整引当金	22	22
その他	4,837	6,128
流動負債合計	45,773	26,883
固定負債		
長期借入金	8	4
退職給付に係る負債	521	731
その他	3,766	4,157
固定負債合計	4,296	4,893
負債合計	50,070	31,776

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成27年6月30日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	7,948	7,948
資本剰余金	7,994	7,994
利益剰余金	46,049	44,020
自己株式	△1,821	△1,821
株主資本合計	60,171	58,142
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△567	△512
為替換算調整勘定	△1	△2
退職給付に係る調整累計額	△109	△102
その他の包括利益累計額合計	△679	△616
非支配株主持分	753	779
純資産合計	60,246	58,305
負債純資産合計	110,316	90,082



(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)
売上高	7,459	17,140
売上原価	4,668	12,190
売上総利益	2,790	4,950
販売費及び一般管理費	5,300	5,956
営業損失(△)	△2,509	△1,005
営業外収益		
受取利息	9	10
受取配当金	85	77
仕入割引	222	323
その他	156	86
営業外収益合計	474	499
営業外費用		
支払利息	2	7
持分法による投資損失	142	264
投資有価証券運用損	12	—
出資金償却	42	61
その他	20	24
営業外費用合計	220	357
経常損失(△)	△2,254	△864
特別利益		
固定資産売却益	—	22
特別利益合計	—	22
特別損失		
固定資産除却損	6	24
訴訟関連損失	2	5
その他	1	2
特別損失合計	9	32
税金等調整前四半期純損失(△)	△2,264	△874
法人税等	△763	△131
四半期純損失(△)	△1,501	△743
非支配株主に帰属する四半期純利益	1	123
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△1,502	△867

四半期連結包括利益計算書  
第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)
四半期純損失(△)	△1,501	△743
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△249	55
為替換算調整勘定	△0	△1
退職給付に係る調整額	7	7
その他の包括利益合計	△243	62
四半期包括利益	△1,744	△681
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△1,745	△805
非支配株主に係る四半期包括利益	1	123

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純損失(△)	△2,264	△874
減価償却費	447	517
のれん償却額	87	85
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△5	△3
賞与引当金の増減額(△は減少)	△291	△279
役員賞与引当金の増減額(△は減少)	△159	△211
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	22	27
受取利息及び受取配当金	△95	△88
持分法による投資損益(△は益)	142	264
支払利息	2	7
売上債権の増減額(△は増加)	23,511	24,506
たな卸資産の増減額(△は増加)	△454	△672
商品化権前渡金の増減額(△は増加)	△529	617
仕入債務の増減額(△は減少)	△25,925	△26,148
その他	△1,599	△884
小計	△7,110	△3,136
利息及び配当金の受取額	101	105
利息の支払額	△2	△7
法人税等の支払額	△1,922	△2,296
営業活動によるキャッシュ・フロー	△8,932	△5,334
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△253	△296
無形固定資産の取得による支出	△462	△376
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	—	652
関係会社株式の取得による支出	△10	△100
貸付けによる支出	△0	△1,393
貸付金の回収による収入	557	1,427
その他	△375	162
投資活動によるキャッシュ・フロー	△544	75
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△329	6,670
長期借入金の返済による支出	△18	△13
配当金の支払額	△798	△1,107
その他	△26	△103
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,172	5,445
現金及び現金同等物に係る換算差額	—	—
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△10,650	185
現金及び現金同等物の期首残高	29,583	15,823
現金及び現金同等物の四半期末残高	18,933	16,009

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第1四半期連結累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年6月30日)

該当事項はありません。